消 費 者 だ よ り

２０１４年１月号

低温やけどに注意

「低温やけど」の事故は、ゆたんぽ、電気あんか、電気毛布及びカイロ（使いすて式）など、冬場に長時間、身体にあてて使用する製品に多く発生しています。

■低温やけどとは

低温やけどは、心地よく感じる程度（体温より少し暖かい温度）でも、皮膚の同じ部分に長い時間接触していることで発生するやけどです。
比較的低い温度（44℃～50℃）のものでも同じ箇所にふれていると、皮膚や皮下脂肪などが壊死し、「低温やけど」を負います。一般的には 44℃では３～４時間以上の接触で発症し、46℃では３０分～１時間、５０℃では２～３分で発症するといわれていますが、そのときの体調など身体の状態によって異なります。

■低温やけどを防ぐために

・カイロを使用する際は、取扱説明書をよく読んで正しく使いましょう。長時間一か所に固定したり、圧迫したりしないことが大切です。睡眠中は絶対に使用しないでください。
・ゆたんぽや電気あんかを、厚手のタオルや専用のカバーなどで包んでも低温やけどはおこります。就寝前に布団に入れ、温まったらゆたんぽは布団から出し、電気あんかはスイッチを切ってください。

※低温やけどは皮膚の深いところまで達することがあります。万が一、低温やけど（皮膚の変色や痛み）が起きたときには、すぐに専門医の診断を受けてください。

＊詳しくは、ｎｉｔｅ（独）製品評価技術基盤機構のホームページを参照してください。
http://www.nite.go.jp/